

現代のICT社会をも予見していた先覚者

「志田林三郎」展開催のお知らせ

明治維新150年記念事業 特別企画展『志田林三郎』幕末維新を駆け未来を予見した若き電気工学者』を開催します。

志田林三郎は、1855年に現在の東多町に生まれ、1871年工学寮（のち工部大学校へ改称）の1期生となり、電信科で電気工学を学びます。1879年工部大学校を首席で卒業後グラスゴー大学へ留学、最優秀論文に与えられるクレランド金賞を受賞。帰国後は工部省（のち逓信省へ改編）に入省、工部大学校、帝国大学（のち東京大学）の教授を兼任するなど活躍しました。また、隅田川での無線通信実験や、地電流観測のための「電気の強弱方向を自記する新器械」を発明するなど、先駆的な研究を行っています。

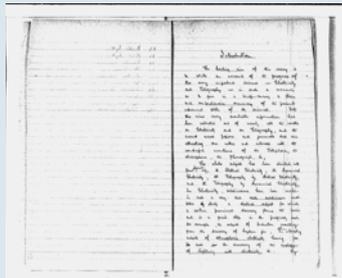
1888年には電気学会を設立、第1回通常会で「将来可能となるであろう十余のエレクトロニクス技術予測」に関して演説しました。その予測のほとんどが、現在実用化されています。

本展覧会では、志田林三郎を原点として、これまでの電気通信技術の発展を紹介し、東京大学大学院工学系研究科での研究から未来の暮らしについて考えます。さらに、国立科学博物館の協力のもと「電気の強弱方向を自記する新器械」を復元し、電気工学者志田林三郎の実像に迫ります。

- 期間 12月16日(日)～平成31年1月31日(木)
- ※月曜休館（月曜が祝日の場合、翌火曜日休館）
- ※12月25日(火)は開館
- ※12月29日(土)～1月3日(木)は年末年始休館
- 場所 郷土資料館・先覚者資料館
- 観覧料 無料



▶クレランド金メダル



▲志田林三郎工部大学校卒業論文（東京大学工学・情報理工学図書館2号館図書室、工学部電子情報工学科、電気電子工学科所蔵）

お知らせ

問い合わせ 郷土資料館 ☎75-3002

70歳以上のみなさんへ

高額療養費「外来年間合算」制度が始まります

■高額療養費（外来年間合算）制度とは？

医療機関で1か月に支払った医療費が上限額を超えた場合、その超えた額を「高額療養費」として支給しています。加えて、一般区分※に該当する人は、これまでの月間を基礎にした高額療養費のほかに、新たに年間を基礎とした高額療養費の支給が始まります。

課保険年金係の窓口申請してください

■後期高齢者医療の人の申請手続き
月間の高額療養費の支給口座へ振り込み（手続不要）

※月間の高額療養費の支給を受けたいことがない人等は12月中旬以降に申請書を郵送（要申請）

次に該当する人には、申請手続き通知ができない場合があります。該当する可能性がある人は相談ください。

支給要件（一般区分のみ）

8月から翌年7月までに医療機関で支払った外来の医療費の自己負担額から月間の高額療養費を除いた額のうち、14万4千円を超えた額を支給します。（今年の対象期間は平成29年8月～平成30年7月）

◆平成29年8月から平成30年7月までの間に

- 県外から転入した人
- 他の医療保険から後期高齢者医療制度に移った人（75歳の年齢到達者など）
- 後期高齢者医療の資格を喪失した人（亡くなられた人や生活保護を受け始めた人）

■国民健康保険の人の申請手続き
対象者へ12月中旬以降に申請書を郵送（予定）

申請書が届いたら、市民生活

※基準日（7月31日）の翌日から2年を過ぎると、給付ができませんのでご注意ください

問い合わせ 市民生活課 保険年金係 ☎75-2159
佐賀県後期高齢者医療広域連合 業務課 給付係 ☎64-8476